

授与する学位:短期大学士(歯科衛生学)		ディプロマ・ポリシー				
知識・理解	幅広い視野	DP1:仏教精神による思いやりの心を持ち、一人ひとりの口腔の健康に寄り添う教養と態度を持つ。				
汎用的能力	基本的能力	DP2:少子高齢社会の進展に伴う多様な歯科・口腔保健のニーズを理解し、乳幼児や高齢者まで、基本的な歯科・口腔保健の対応ができる。				
態度・志向性	豊かな人間性 ／態度・志向性	DP3:医療・保健・福祉等の多職種とのチーム医療や保健福祉活動に必要な知識とコミュニケーション能力を持ち、連携・協働ができる。				
統合的な学習経験 と創造的思考力	応用的能力	DP4:地域社会が抱える健康課題に対し、歯科衛生士としての職業倫理感と責任感をもって口腔衛生の観点から課題解決に向けて取り組むことができる。				
学科目	科目の主題	科目の到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号			
			O:DP達成のために設定された到達目標と関連性がある ※1つの達成目標に対して最大6個まで			
			DP1	DP2	DP3	DP4
仏教の人間観Ⅰ	仏教の人間観の学びを通じて自他の理解を深める	1)人間観なるものに触れる 2)仏教をはじめとする複数の人間観を学び、他者や共同体のあり方に自分がかかわっていることを自覚できる 3)自分自身の他者に対する向き合い方を振り返ることができる	○ ○			
仏教の人間観Ⅱ	仏教の人間観の学びを通じて校訓を理解し、実践できる	1)仏教をはじめとする複数の人間観を通して、社会のありようを考察できる 2)仏教の人間観にもとづく他者への思いやりを理解できる 3)真実に即した心のコントロールの必要性を十分理解できる		○ ○ ○		○
京都光華の学び	本学建学の理念と特色を理解し、それらを基盤としながら、自立した「市民」に必要な批判的思考力(情報を集め、それらを批判的に評価し、責任ある判断を下す力)を身に付ける	1)学園史、および建学の精神のよって立つところを理解し、大学生活の中に活かそうとする 2)社会的・政治的論争のある問題について、関連情報を集め批判的に評価し、自らの意見を述べる事ができる 3)身近な地域コミュニティの課題に対して、関連情報を集め批判的に評価し、自らの意見を述べる事ができる	○			○
基礎ゼミ	歯科衛生士を目指すためのスタディスキルを身に付け、女性としてのキャリア形成について考える。	1)自校史や建学の精神である仏教精神を理解している 2)短大生として学びの基盤となる学修方法(アカデミックスキル)を習得する 3)女性としてのキャリア形成を考える上で、自身の価値観を表現し、他者についても理解することができる	○	○		○
医療英語	健康科学分野で必要とされる英語表現および医学用語を学び、英語論文を抄録する	1)歯科衛生分野において必要な英語表現を学習する 2)歯科衛生分野に必要な英語の医学用語および略語を修得する 3)歯科衛生分野における重要な英語論文を抄録する	○ ○ ○	○ ○ ○		
プレゼンテーション	プレゼンテーション入門	1)プレゼンテーションにおける「よい聴き手」について理解して、実践することができる 2)プレゼンテーションにおける「よい話し手」について理解して、実践することができる 3)目的に応じたプレゼンテーションを構成することができる			○ ○	○
データサイエンス入門	データやAIを生活や仕事等の場で使いこなすための基礎的素養を身につける	1)データ・AI活用領域の広がりや理解し、データ・AIを活用する価値とデータ・AIを扱う上での留意事項を説明できる 2)Excelなどの表計算ソフトウェアを用いてデータを適切に整理・分析することができる 3)整理したデータや分析結果を正しく読み解き、適切な図表を用いて表現し、他者に分かりやすく伝えることができる	○ ○	○ ○		○
カウンセリング理論	カウンセリングの理論と技法を学び、仲間同士支え合う「ピアヘルピング」の技能を習得する。	1)カウンセリングの基礎的知識を習得する 2)ピアヘルピングの基本的知識と技能を習得する 3)日常生活における人との対話に役立つ技能を身につける	○ ○		○ ○	
臨床心理学	臨床心理学の基礎にふれ、臨床心理学ではどのように問題を捉え(アセスメントすること)として、どのような理論と技法を学ぶか、知識を得ることを通じて、自己を理解し、受け入れることを体験する。ひいては他者を理解し、受け入れることにつながるきっかけを提供することを旨とする。	1)臨床心理学の基礎的知識を得る 2)臨床心理学の主な理論の特徴を理解する 3)臨床心理学の主な理論を日常生活の中でも活かすことができる	○ ○		○ ○	
生命科学の基礎	生命の営みを細胞・分子といったレベルで学び、平行して履修する生理学・解剖学・生化学の授業内容の深化をはかる。	1)年次に応じて基礎と専門をバランスよく段階的に学べる基礎学力を身につける 2)ヒトのからだの基礎知識を修得し、患者指導に役立てることができる 3)多職種とのチーム医療や保健福祉活動に必要な基礎知識を養うことができる	○ ○ ○	○ ○		
解剖学・組織発生学	人体の基本形態を理解させるとともに、各器官の機能および人体ならびに口腔を構成する器官の組織構造などの基礎知識を深める。	1)頭部の骨、頭頸部の筋について理解し説明できる。 2)頭部の神経について理解し説明できる。 3)歯および歯周組織の発生について理解し説明できる。	○ ○ ○	○ ○		
生理学	人体の主要な器官や組織の機能とそのメカニズムを理解する	1)ホメオスタシスと細胞の生理機能を概説できる。 2)神経機能(感覚機能、運動機能、自律機能、高次神経機能)を概説できる。 3)呼吸、循環、消化、内分泌、腎機能を概説できる。	○ ○ ○			
栄養学	人間の身体をつくり、エネルギーの元となる食品が持つ栄養素とその働きについて学ぶ。	1)五大栄養素の働きを理解し説明できる。 2)栄養・食生活と健康との関連を理解する。 3)ライフステージに応じた栄養と健康との関連を理解し説明できる。	○ ○ ○	○ ○		
口腔解剖学	口腔と口腔を中心とする付近の各器官の形態や構造ならびに相互の関係について学ぶ。	1)歯種・歯式を理解し形態的特徴が説明できる。 2)歯・歯周組織の構造を理解し説明できる。 3)歯の異常について理解し説明できる。	○ ○ ○	○ ○		
口腔生理学	口腔、咽、顔面の多様な機能とそのメカニズムを理解する	1)歯・口腔・顔面の体性感覚と味覚、嗅覚を説明できる。 2)下顎位、顎反射、咀嚼の意義と評価法、嚥下時の諸器官の運動を説明できる。 3)吸啜、嘔吐、発生と構音、唾液の役割と分泌機序を説明できる。	○ ○ ○			
生化学・口腔生化学	生命現象を生化学的な観点から知り、生化学的・分子生物学的手法を用いて口腔内疾患および組織について学ぶ。	1)栄養素の代謝について理解し説明できる。 2)唾液の作用を理解し説明できる。 3)プラークによる酸産生過程理解し説明できる。	○ ○ ○	○ ○		
病理学・口腔病理学	病気の原因とメカニズムを明らかにすることを学ぶ。病理学で学んだ知識より、口腔領域の病変とどのように関連しているのかを修得する。	1)循環障害について理解し説明できる。 2)炎症および免疫障害について理解し説明できる。 3)歯周組織の病変を理解し説明できる。	○ ○ ○	○ ○		
微生物学・免疫学	微生物についての基礎知識を習得する。微生物学的な視点から口腔環境を把握し、歯科の2次疾患であるう蝕と歯周病を中心とした口腔感染症の病因について学ぶ。	1)微生物の特徴を学び、その病原性、病原因子と疾患との関連について理解できる 2)免疫の種類と仕組みを理解できる 3)口腔微生物叢やプラークの形成、病原性について理解できる	○ ○ ○			
薬理学	薬物の人体に及ぼす作用を学び、薬物の構造特性、代謝経路、作用機序や副作用、臨床での有用性について学ぶ。	1)薬物の定義や薬理作用、薬効に影響する因子、副作用について説明できる。 2)薬剤の取り扱いと管理について理解を深める。 3)全身疾患と服用薬の関係について説明できる。	○ ○ ○	○ ○		

学科目	科目の主題	科目の到達目標	ディプロマポリシーの項目番号			
			○:DP達成のために設定された到達目標と関連性がある ※1つの達成目標に対して最大3個まで			
			DP1	DP2	DP3	DP4
歯科薬理学	薬学を基礎に口腔分野の抗菌薬、抗ウイルス薬などの薬物療法、薬物アレルギーなどを学び、口腔領域における各種薬理作用を学習する。	1) 歯科臨床の場で用いられる薬物の特性を理解する。 2) 歯科医療で常用される抗菌薬、抗炎症薬の特長を概説できる。 3) 国家試験に対応する歯科薬理分野の学びを深める。	○ ○ ○			
口腔衛生学	歯や口腔の健康(口腔保健)を保持増進するための科学と技術を学び、歯科疾患予防のためのセルフケア、ハブリックケア、プロフェッショナルケアを学ぶ。また個人や集団における口腔機能の維持増進のための理論およびリスク評価を習得する。	1) 歯・口腔の付着物・沈着物を理解できる 2) 口腔疾患の疫学的特性を理解できる 3) フッ化物の応用を理解できる	○ ○ ○			
公衆衛生学	公衆衛生学は、集団(地域、国、地球レベル)の健康への脅威を扱う学問であり、地域社会の疾病を予防や身体的および精神的健康の増進を図るための科学や技術を学ぶ。	1) 公衆衛生学の概念を理解できる 2) 種々の保健統計、環境要因と健康との関連について理解できる 3) 地域保健の仕組みや基本的な活動について理解できる	○ ○ ○			
歯科医療と関係法規	歯科衛生士の業務を行うために必要な歯科医療における法律を学び、衛生行政及び関係法規について概要を理解する説明する。	1) 歯科衛生士法の目的および歯科衛生士の業務範囲について理解し説明できる。 2) 歯科口腔保健の推進に関する法規について理解し説明できる。 3) 社旗保険制度について理解し説明できる。	○ ○ ○	○		
保健情報統計学	歯科衛生士に必要な情報収集のための医学について学び、う蝕・歯周病・口腔清掃状態の疫学的特性と問題点、数量化の仕方、計算方法を修得する。	1) う蝕に関する指標を理解し説明できる。 2) 歯周病に関する指標を理解し説明できる。 3) 口腔清掃状態に関する指標を理解し説明できる。	○ ○ ○	○		
歯科衛生士概論	歯科衛生士を目指す者として、人びとの健康づくりを支援する方法や保健医療人としての基本的態度について知識を得る。	1) 歯科衛生学の概念を知り、歯科衛生士としての役割を理解する。 2) 医療安全、医療倫理を理解し、医療人としての自覚と心構えを持つ。 3) 卒業後活躍する自分を思い描ける。	○ ○ ○		○	
臨床歯科Ⅰ(歯科保存・歯内治療)	歯科保存分野(歯の硬組織疾患の病因や病態、ならびにそれらの疾患)と歯内療法分野(歯髄疾患、根尖性歯周疾患、根管処置等)に対する検査、治療、治療および術後の口腔健康管理を理解する。	1) 歯の硬組織疾患と歯髄疾患の病態や予防法を説明できる。 2) 各種保存修復治療の特徴と臨床術式について説明できる。 3) 歯髄疾患・根尖性歯周組織疾患の病態と治療方針について説明できる。	○ ○ ○	○		
臨床歯科Ⅱ(歯科材料学)	歯科医療の技術進歩に伴い目覚ましい発展を遂げている歯科材料について、その特性や原理を学び、安全かつ適正に利用できるように学習する。	1) 印象用材料について種類と所要性質について理解し説明できる。 2) 合着・接着・仮着材の種類と所要性質について理解し説明できる。 3) 歯冠修復用材料の種類と所要性質について理解し説明できる。	○ ○ ○	○		
臨床歯科Ⅲ(歯科補綴)	歯や関連組織の欠損によって失われた顎口腔系の形態、機能、審美性を回復する治療法を知り、その適切な対応方法を学ぶ。	1) 補綴治療の種類と材料について理解し説明できる。 2) 有床義歯の製作手順を理解し説明できる。 3) 部分床義歯の分類を理解し、構成要素が説明できる。	○ ○ ○	○		
臨床歯科Ⅳ(口腔外科・インプラント)	口腔粘膜や顎骨、唾液腺、顎関節、顔面・頰部いろいろな疾患の特徴とその治療法が、全身と口腔の健康を理解し、歯科衛生士として必要な基本的な知識を身につける。	1) 口腔顔面領域に発生する各種疾患を説明できる 2) 歯科インプラント治療を理解し説明できる 3) 口腔外科治療・インプラント治療の介助を理解し説明できる	○ ○ ○	○		
臨床歯科Ⅴ(歯周病)	歯周疾患の基礎知識(歯周組織の解剖や機能)、歯周疾患の分類や病期、治療方法や予防について学ぶ。歯周病と全身疾患との関連などについて学習する。	1) 歯周病の種類と病態を理解し説明できる。 2) 歯周病と全身の関連について理解し説明できる。 3) 歯周外科治療の種類と治療手順を理解し説明できる。	○ ○ ○	○		
臨床歯科Ⅵ(矯正歯科)	矯正治療の概論から、成長変化を踏まえた矯正治療による変化、また治療に使用される装置とその術式、不正咬合の治療方法や予防について学ぶ。	1) 正常咬合と不正咬合について理解し説明できる。 2) 歯の移動様式について理解し、それに伴う組織変化を説明できる。 3) 矯正装置の種類を理解し使用器具・材料について説明できる	○ ○ ○	○		
臨床歯科Ⅶ(小児歯科)	小児の心身の健全な成長・発達過程を学び、小児期の適切な口腔健康管理が実践できる知識を習得する。	1) 小児の顎・顔面・頭蓋の成長発達、歯および歯列の発育について理解できる 2) 小児歯科で診療する口腔疾患や予防法について理解できる 3) 小児歯科の診療の流れを理解できる	○ ○ ○	○		
臨床歯科Ⅷ(高齢者)	高齢者を対象とする心身の加齢変化や多くの基礎疾患を配慮したうえで、高齢者歯科医療に関わる治療や予防法を習得する。	1) 高齢化社会における歯科医療の役割を理解し説明できる 2) 高齢者に見られる身体的問題点を理解し説明できる。 3) 高齢者歯科治療を安全に行える知識を身につける	○ ○ ○	○	○	
臨床歯科Ⅸ(障がい者)	知的障害、発達障害、聴覚障害、認知症、自閉症、心疾患、うつ病、車椅子の方など障害の根本を学習し、特別な配慮を必要とする患者に対する治療法や予防(定期的な口腔清掃指導や歯面清掃等)を学ぶ。	1) 障害の概念が理解できる 2) 障害者の全体的特徴と歯科の特徴が理解できる 3) 摂食嚥下障害について理解できる	○ ○ ○			
臨床歯科Ⅹ(地域包括ケアシステム)	歯科衛生士が活躍するために、健康寿命の延伸に向けて進められる地域包括ケアの中で、高齢者を中心とした安全な歯科医療の展開や実践方法、多職種連携について学ぶ。	1) 地域包括ケアシステムに求められる口腔健康管理を実践できる。 2) 口腔健康管理における歯科衛生士の役割を説明できる。 3) 対象者の口腔健康管理の要点を説明できる。	○ ○ ○	○	○	○
臨床歯科Ⅺ(口腔機能リハビリテーション)	口腔機能や摂食嚥下機能に関する基本的事項を理解し、病態別やライフステージに合わせた摂食嚥下機能の発達や口腔機能の評価方法および機能訓練の実践を学び、対象に応じた介入方法を学習する。本科目を通じて、摂食嚥下リハビリテーションのチームアプローチにおいて歯科衛生士として役割を果たすことができる知識を身に付ける。	1) 病態やライフステージに応じた口腔機能の働きを説明できる。 2) 摂食・嚥下障害とそのリハビリテーションの概要について説明できる。 3) 口腔機能に関連する指導や摂食嚥下リハビリテーションにおける歯科衛生士の役割を説明できる。	○ ○ ○	○		
歯科予防処置論	歯科予防処置の定義と法的位置づけについて理解し、口腔疾患の病因、病態、予防法に関する基礎知識と口腔の2次疾患であるう蝕および歯周病の病因、病態、歯科予防処置に関する方法、技術を学ぶ。	1) 正常な歯、歯周組織を理解するとともに、予防処置の範囲と業務を概説できる 2) う蝕および歯周病の原因、分類、進行過程を述べることが出来る 3) フッ化物応用や予防的歯石除去の意義および用いる器具・器材について説明できる	○ ○ ○	○		
歯科予防処置演習Ⅰ	う蝕予防処置および歯周病予防処置について専門職としての心構えを持ち、歯科予防処置実践のために必要な口腔疾患の病因、病態、う蝕および歯周病予防に関する基本的な知識をふまえた必要歯・口腔の情報収集と、各種手技について修得する。	1) 患者に配慮した歯周組織検査の必要性が理解できる 2) 歯周基本検査時に使用する手用器具(プローブ、エキスポローラー、シックルタイプスケーラー)の特徴、操作方法が説明でき、操作ができる 3) フッ化物の取り扱いについて説明できる	○ ○ ○	○		
歯科予防処置演習Ⅱ	歯科予防処置論・演習Ⅰで修得した内容をもとに、う蝕・歯周病予防と治療に必要な検査についての知識や器具・器材の取り扱い方法を習得する。各種検査や処置を経験し、予防業務と治療にスムーズに関わることができることを重視する。また、相互実習を通してコミュニケーション能力等を身につける。	1) キュレットタイプスケーラー・パワースケーラーの基本操作ができる 2) う蝕や歯周病予防と治療における歯科衛生士の役割を具体的に述べることができる 3) 検査結果の解釈・分析ができる	○ ○ ○	○		○
歯科予防処置演習Ⅲ	歯科予防処置論の集大成として、複数の症例を歯科衛生士過程に沿って、対象者の口腔内の状況のみならず、全身疾患における患者の背景(心理面や環境面)にも配慮しながら歯科予防処置を行うことができるよう知識、技術、態度を修得する。	1) 収集した情報の解釈・分析ができる 2) 歯科衛生士介入計画を立案し、計画に基づいてケアプランを実践できる 3) 患者に配慮した周術期患者のケアの立案が出来る	○ ○ ○	○	○	○
歯科保健指導論	歯科保健指導の法的な位置づけと定義を学び、対象者の健康増進・疾病予防を口腔の健康をサポートするため、健康の概念、予防の概念等の理解を深める。口腔健康管理の支援のための基本的な考え方を学習し、自分自身の健康管理能力を養う。	1) 口腔健康管理支援の基礎について理解できる 2) 健康および予防の概念について理解できる。 3) 自分自身の健康管理能力を実践できる。	○ ○ ○	○		

学 科 目	科 目 の 主 題	科 目 の 課 履 目 録	ディプロマポリシーの項目番号			
			O:DP達成のために設定された到達目標と関連性がある ※1つの達成目標に対して最大3個まで			
			DP1	DP2	DP3	DP4
歯科保健指導演習Ⅰ	口腔衛生管理に必要な各種口腔清掃用具の目的を理解し、基本的な使用方法を学習する。相互実習においては、対象者の口腔内観察を行い、口腔衛生状態に応じた清掃用具の選択や使用方法を習得する。	1) 歯科保健指導の遂行に必要な、対象者の情報について収集方法を習得できる。 2) 対象者の口腔観察を行い、その口腔に適した清掃用具と方法を実践できる。 3) 口腔清掃の方法を説明できる。	○		○	
歯科保健指導演習Ⅱ	各ライフステージの対象者に、適切な歯科保健指導を行うため、一般的特徴や口腔の特徴を理解し、個人や集団指導の基礎を学習する。演習時には各ライフステージの事例の問題点を分析し、指導計画の立案の基本を学ぶ。	1) 各ライフステージに応じた健康づくりを口腔保健の専門家としての実践力・応用力を培うことができる。 2) 口腔保健と生活習慣の関係を説明できる。 3) 各ライフステージの特徴を理解できる。	○			○
歯科保健指導演習Ⅲ	学校歯科保健を通じて、生涯にわたり継続的な口腔の健康を保持増進するための口腔健康管理を学び、その知識と技術を身に付ける。対象者を取り巻く社会環境、特徴および口腔内状況を把握し、口腔健康管理の基礎づくりを支援する。	1) 様々なライフステージにおける個人や集団指導の技法を実践できる。 2) 歯科保健指導に必要なコミュニケーション能力を理解する。 3) 歯科衛生過程の理論を理解する。	○	○		○
歯科診療補助論	歯科診療の現場において適切な診療補助を行うために必要な基礎知識を修得する。歯科診療現場における環境の整備、感染予防を含む医療安全管理、歯科治療で用いられる印象材などの主要な歯科材料の種類、基本的性質および使用方法を理解する。	1) 歯科診療室での感染予防対策について理解できる。 2) 歯科診療室の環境、設備について理解できる。 3) 主要な歯科材料について理解できる。	○		○	
歯科診療補助演習Ⅰ	スタンダードプレクションの概念に基づく感染防止対策を習得する。歯科材料を理解した上でマネキン実習を行い、取扱いの基本技術を習得する。相互実習では、歯科診療における注意点を理解し、患者への配慮などを学ぶ。	1) 感染予防対策を理解し、実践できる。 2) 歯科診療室の環境を理解し、実践できる。 3) 印象材についての基礎を理解し、取り扱うことができる。	○	○		
歯科診療補助演習Ⅱ	さまざまなライフステージにおける歯科医療に対応するために、専門的な歯科診療の補助に関する知識および態度を習得する。歯内治療時、保存治療時、補綴治療時、エックス線撮影等の診療補助を理解し、必要な器具・薬剤の準備と取り扱いを習得する。	1) 歯科治療の内容及び治療手順を理解する。 2) 各歯科治療の内容及び共同作業が実践出来、各種歯科材料が取り扱える。 3) さまざまな患者対応時の注意点が理解できる。	○	○	○	
歯科診療補助演習Ⅲ	歯科衛生過程を考慮の上で必要な客観的情報(スタディモデルの作製等)を理解する。臨床実習がスムーズに行えるように各種歯科材料の取扱いを習得する。専門職としてさまざまな全身疾患を認識し、口腔に現れる特徴と歯科診療時の注意点を理解する。	1) 客観的情報の収集ができる。 2) 治療手順を理解し必要な歯科材料が取り扱える。 3) 特別な配慮が必要な患者の対応するときの注意点が理解できる。	○		○	○
歯科放射線・臨床検査学	歯科診療で行われる放射線検査ならびに各種臨床検査について理解する。	1) 歯科診療で行われる放射線検査ならびに各種臨床検査について理解し説明できる 2) 検査結果をもとに診断ならびに患者の問題点を導くことができる 3) 歯科臨床で遭遇する疾患に対して適切な検査を提案できる	○	○		○
基礎歯科実習	歯科診療行為や歯科衛生士業務を実際の歯科診療所や施設において見学・体験する。この体験を通して、歯科診療や歯科衛生士という職業に対する自身の理解を深め、歯科衛生士の活動の場を認識するとともに、歯科診療所の機能および役割を理解する。	1) 患者情報を整理しながら患者観察ができる。 2) 実習生として歯科医療スタッフとコミュニケーションを展開することができる。 3) 正確で適切な実習記録を記入することができる。			○	○
臨床臨床実習Ⅰ	歯科衛生士業務の基礎的技術を演習により習得した上で、地域の一般歯科診療所や専門歯科診療所において実際に歯科診療補助や歯科衛生士の役割と業務について体験学習をする	1) 臨床における歯科衛生士の実践的知識と技術を学び、医療人として倫理的配慮ができる。 2) 対象者に応じた歯科診療および歯科保健指導を理解し、状況に合わせた実習記録の記述ができる。 3) 医療従事者と連携したチーム医療を理解することができる。			○	○
臨床臨床実習Ⅱ	病院において各専門領域における当該診療科の機能や専門性を学ぶとともに、高度先進歯科医療現場における歯科衛生士の立場や役割、多職種との協働や連携について学ぶ。	1) 歯科衛生士業務を学び、指導者からの指示内容を理解した行動ができる 2) 対象者に応じた歯科診療および歯科保健指導を見学し、状況に合わせた実習記録の記述ができる 3) 医療従事者と連携したチーム医療を理解することができる		○		○
地域歯科保健実習Ⅰ	各ライフステージ(幼児・学童期・青年期)における一般的特徴と口腔の管理を行うために必要な、知識・技能・および態度を身に付ける。 学外実習を通して、実践的な歯科保健教育活動に必要な知識・技術を学ぶ。	1) 学校現場等において集団の歯科保健指導ができる 2) 真摯な態度で実習に取り組むことができる 3) 保育士等との多職種連携の重要性を学び、実習記録に残すことができる			○	○
地域歯科保健実習Ⅱ	高齢者や特別な配慮が必要な方の一般的特徴と口腔の管理を行うために必要な、知識・技能・および態度を身に付ける。 学外実習を通して、実践的な歯科保健教育活動に必要な知識・技術を学ぶ。	1) 介護施設等において集団の歯科保健指導ができる 2) 真摯な態度で実習に取り組むことができる 3) 介護職等との多職種連携の重要性を学び、実習記録に残すことができる	○			○
歯科審美学	歯の漂白を通じて、顎口腔系における形態美・色彩美・機能美の調和を奏え、人々の幸福に貢献するための理論や技術を学習する。	1) 歯科審美学の基本が理解できている 2) 歯科審美の病態と診査、予防、診断、治療、メンテナンスについて理解する。 3) 健康美を基本とした患者のQOLに貢献することができる	○		○	○
看護学	全てライフステージの人を対象に、その人や家族が持つそれぞれの固有の健康問題の理解する。対象者に応じた援助と健康の維持増進方法の理論と実践を学ぶ。	1) 看護の役割を理解、説明できる 2) 対象者に応じた援助方法について理解、実践できる。 3) 人の様々な死について理解し説明できる。	○	○	○	○
歯科衛生セミナー	これまでに学んだ歯科衛生士になるための知識とスキルの集大成として、歯科衛生士国家試験を合格できる実力が確保する。歯科衛生士国家試験に関わる科目について、それぞれの科目への理解と応用力を深める。	1) 専門基礎分野について理解できる。 2) 専門分野について理解できる。 3) 自分の弱点を知り、国家試験対策を実行することができる。	○			○
卒業研究	これまで学んだ歯科衛生士になるための知識とスキルの集大成を目的とし、論理的な物の見方や文献検索方法等を習得し、研究レポートの作成および発表を通して言語能力およびプレゼンテーション力を身に付ける。	1) 歯科衛生士研究の意義及び方法が理解できる。 2) 歯科衛生に関連するテーマを持ち、文献・症例検討ができる 3) 適切な研究方法の選択及びデータ収集により意見や考えをまとめることができる	○	○		○
仏教と医療者	仏教と医療の関わりを学び、医療従事者としての教養知識を習得する。	1) 仏教と医療の関わりを学ぶ。 2) 仏教の人間観・他界観を理解する。 3) 仏教を通じて見識ある医療人としての豊かな人間性・高い責任感・倫理的な行動をとることができる。	○	○	○	
専門職の連携(基礎)	医療福祉機関をはじめとした地域の生活者の支援に関わる職種役割を理解する	1) 取得を目指している資格は、他職種と連携し地域における包括的なヘルスケアシステムを担い、人の命を救う専門職としての資格であることを理解する 2) 地域における包括的なヘルスケアシステムを担う他の専門職を理解する 3) 他職種の視点を通じて、将来についてのより明確な自己像を描けるようになる	○		○	
専門職の連携(応用)	他職種との連携協働の実際を学習する専門職連携に関する発展的な科目であり、実践力のある専門職として就職するための総まとめ的な学習を行う	1) 他職種間での専門的かつ高次元なコミュニケーションをはかれるようになる 2) 実例を取り上げることで、より具体的な実践的な援助方法を理解する 3) 専門職としての自己意識を高め、資格取得に向けての意欲向上を目指す	○	○	○	○
包括的ヘルスケア論	包括的な視点で地域・在宅で生活している人々に対する保健・医療・福祉の施策の動向を学ぶ	1) 我が国の少子高齢化に伴う問題を理解する 2) 地域包括ケアの理論と制度を学ぶ 3) 地域包括ケアの実際を学ぶ	○		○	
摂食嚥下障害学	摂食嚥下に関わる体の構造と機能、ならびに、それらを制御する脳の機能についての理解を基礎として、正常な摂食嚥下、摂食嚥下障害、摂食嚥下障害の評価法と指導法を学ぶ	1) 摂食嚥下のメカニズムを理解する。発達や加齢による変化についても理解する 2) 摂食嚥下障害の臨床像について理解する 3) 摂食嚥下障害に対する評価法、指導法、外科的対応、補綴的処置について理解する	○		○	

学科目	科目の主題	科目の到達目標	ディプロマポリシーの項目番号			
			○:DP達成のために設定された到達目標と関連性がある ※1つの達成目標に対して最大3個まで			
			DP1	DP2	DP3	DP4
摂食嚥下障害演習	摂食・嚥下障害について言語聴覚士が行う具体的な検査・評価・診断法について学ぶ。また、症状に対応した訓練、食形態や姿勢、食事介助方法、訓練実施上の危機管理等、臨床技術を習得することを目的とする。	1) 実際の臨床方法を演習し、ポイントを理解する 2) 検査・評価・診断法を、臨床場面を想定して理解する 3) 論理的に考え、実践できる力を育てる	○	○	○	○
伝統文化	礼法・茶道・華道・書道への理解を深め、基本的な所作を修得する。	1) 礼儀作法を基礎として季節感、審美眼を養い、日本文化の特性を説明することができる。 2) 礼法・茶道・華道・書道における基本的な手法と立ち振る舞いを修得している。 3) 礼法・茶道・華道・書道の関連性を理解し、他者への思いやりを備えた行動をとることができる。	○	○	○	○
中国語 I	中国語コミュニケーションのための基礎を身につける	1) 中国語の正しい発音を習得する 2) 中国語で自己紹介ができる 3) 中国の文化への理解を深める	○	○	○	○
中国語 II	中国語コミュニケーションのための基礎を身につける	1) 中国語の基本的な語法を習得する 2) 中国語で簡単な会話が出来る 3) 中国の社会と生活への理解を深める	○	○	○	○
ハングル I	韓国語コミュニケーションのための基礎を身につける	1) 韓国語で簡単な挨拶ができる 2) 韓国語の発音及び文法の基礎が理解できる 3) 語学の学習を通じて、隣国の文化を知る	○	○	○	○
ハングル II	韓国語コミュニケーションのための基礎を身につける	1) 韓国語で簡単な会話が出来る 2) 韓国語の発音及び文法が理解できる 3) 語学の学習を通じて、隣国の社会と生活を知る	○	○	○	○
外国の大学での短期研修	夏季・春季休暇期間中に実施する海外協定校の短期語学研修プログラムに参加して、現地の言葉の「読む」「書く」「聞く」「話す」を中心に学ぶ。	1) 研修先の言語を、日常生活に支障ないレベルまで習得する 2) 大いに見聞を広め、さまざまな人々との交流を通じて、グローバル社会で生きていくために必要な異文化への理解、多様な価値観を身につける 3) 海外での生活体験を通じて、自立心や生活力、コミュニケーション能力を高める	○	○	○	○
国際社会とジェンダー	ジェンダーの視点を基礎から学ぶ。また、ジェンダー問題の国際比較をし、自分の暮らす社会のジェンダー課題を批判的に考察する視点を身につける。	1) どのようにジェンダーが構築されているかを、日常生活の具体的な場面から考察することができる。 2) 現代社会におけるジェンダーの課題を自らの課題として捉え、考察する態度を身につけている。 3) ジェンダー課題に対する国際的な潮流、各国の現状や取り組みを理解し、自分の暮らす社会の現状を含め、批判的に考察できる。	○	○	○	○
情報リテラシー	大学での学習および生活において必須となる基礎的なICT利活用能力を身につける	1) 情報処理技術(コンピュータ)全般に関して、主にハードウェア、ソフトウェアの概念や動作の仕組みの基本について理解できる 2) 情報通信技術(ネットワーク)全般に関して、主にコンピュータネットワーク、インターネットの概念や動作の仕組みの基本について理解できる 3) 情報社会での様々な問題解決の基本として必要となる情報通信技術の現状や将来について幅広く理解することができる	○	○	○	○
健康の科学	健康に対する知識の習得及び実践方法について学びを深める	1) 望ましいライフスタイルと生涯環境の側面から健康について理解し、説明ができる 2) 個人・集団の健康指標を分析できる 3) 健康の自主管理の実践に取り組むことができる	○	○	○	○
食生活と健康	食品中の様々な栄養成分について理解し、健康な食生活に役立てる	1) 健康に必要な栄養成分を理解している 2) 食品の栄養成分について理解している 3) 健康を維持するための食品の適切な摂取法を理解し、実践できる	○	○	○	○
生涯スポーツ入門	豊かなスポーツライフを実現するための知識と実践する力を身につける。	1) 生涯スポーツの理論を学び、自身の生活について省察する。 2) 様々なスポーツの価値を理解し、自身のスポーツへの関わり方を検討する。 3) スポーツ観戦やスポーツボランティアの取り組みについて知る。	○	○	○	○
くらしのなかの宗教	現代社会に生きる様々な宗教文化や形態、慣習を理解し、国内外の様々な宗教を持つ人々を尊重し対応する姿勢を学ぶ	1) 身近にある宗教的文化を理解し説明できる 2) いくつかの代表的な宗教文化について適切な知識を習得している 3) 様々な宗教文化を通して人が持つ価値観の多様性を理解できる	○	○	○	○
メディカルクラーク I	点数算定ルールの基礎知識を習得し、「メディカルクラーク(歯科)」の資格取得を目標とする。	1) 医療保険制度の基礎知識を理解できる 2) 診療報酬の基礎知識を理解し点数算定できる 3) 診療報酬明細書の記載要領を理解できる	○	○	○	○
メディカルクラーク II	患者接遇、診療報酬明細書について理解し、「メディカルクラーク(歯科)」の資格取得を目標とする。	1) 医療機関において、患者接遇・受付の基礎ができる 2) 診療報酬の基礎知識を理解し点数算定できる 3) 診療報酬明細書の記載要領を理解できる	○	○	○	○
メディカルクラーク応用	メディカルクラーク I、メディカルクラーク II、での保険制度、接遇、歯科診療報酬点数の算定方法等の学習を踏まえ、点数算定ルール、明細書点数要領を理解し、「メディカルクラーク(歯科)」の資格取得を目標とする。	1) 診療録(カルテ)を正しく読むことができる 2) 診療報酬明細書の誤りを発見できる 3) 医療事務技能審査試験に向け時間内に向けての解答ができる	○	○	○	○
ドクターズクラーク I	日本医療教育財団が実施する医師事務作業補助技能認定試験の受験対策の講座であり、「ドクターズクラーク」の合格を目標とする。	1) 医療保険制度・医療関連法規を理解できる 2) 医学一般・薬学一般を身につける 3) 各種医療文書を作成できる	○	○	○	○
ドクターズクラーク II	日本医療教育財団が実施する医師事務作業補助技能認定試験の受験対策の講座であり、「ドクターズクラーク」の合格を目標とする。	1) 医療保険制度・医療関連法規を理解できる 2) 医学一般・薬学一般を身につける 3) ヒューマンスキル・ビジネススキルを身につける	○	○	○	○
調剤報酬請求事務	調剤薬局事務職員として必要な「医療保険制度」や「公費負担医療制度」の基本的な知識、「薬剤」についての基礎知識。患者対応における「接遇マナー」から「保険請求業務」に携わるために必要な「調剤点数表」の理解と、「調剤報酬明細書」を作成するまでの技能を身につけていく。	1) 医療保険制度を理解できる 2) 診療報酬明細書の作成、点検ができる 3) 患者接遇と受付業務を身につける	○	○	○	○
ケアクラーク	介護事務は、介護を必要とする利用者や家族、介護サービスを提供するスタッフ等と直接対応していくため、介護保険等の制度上の知識の習得、介護保険等の請求に必要な技能、介護現場での接遇マナー等を身につける。	1) 介護保険制度の基礎知識を理解できる 2) 介護報酬を理解し介護給付費の算定ができる 3) 介護給付費明細書の記載要領を理解できる	○	○	○	○

学科目	科目の主題	科目の到達目標	ディプロマポリシーの項目番号			
			○:DP達成のために設定された到達目標と関連性がある ※1つの達成目標に対して最大3個まで			
			DP1	DP2	DP3	DP4
日本語 I	日本語運用能力を身につける	1. 読む・書く・話す・聞くの4技能について、日常レベルの運用力を習得している	○		○	
		2. 新聞記事・論説文などを読解し、要約できる	○		○	
		3. 文法的に正確な表現ができる			○	
日本語 II	日本語運用能力を向上させ、日本語で見たり聞いたり考えたりできる	1. 読む・書く・話す・聞くの4技能について、大学の学習に適用した運用力を習得している	○		○	
		2. 新聞記事・論説文などを読解し、要約できる	○		○	
		3. 話し言葉と書き言葉の使い分けができる			○	
日本事情 I	日本の文化・習慣を理解する	1. 日本についての基礎的な知識を身につけている	○			
		2. 日本での生活で留意する点を理解している	○	○		
		3. 体験学習を通じて日本文化への理解を深めている			○	
日本事情 II	日本の文化・習慣を理解し、自国の文化や習慣と比較し、異文化理解を深める	1. 日本の伝統文化についての知識を身につけている	○			
		2. サブカルチャーなど、現代の日本についての理解を深めている		○		
		3. 日本と時刻の文化・習慣を比較し、自分の意見を述べるができる			○	